

**製品名: SLP-76 (リン酸化 Tyr128) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05433**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	75kDa

**抗原情報**

遺伝子名	LCP2
別名	LCP2; Lymphocyte cytosolic protein 2; SH2 domain-containing leukocyte protein of 76 kDa; SLP-76 tyrosine phosphoprotein; SLP76
遺伝子 ID	3937.0
SwissProt ID	Q13094
免疫原	抗血清は、ヒト SLP-76 の Tyr128 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 94-143

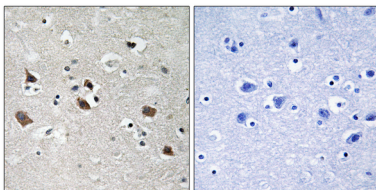
**背景**

SLP-76は、もともと白血病T細胞株 Jurkat における T細胞受容体 (TCR) ライゲーション後の ZAP-70 タンパク質チロシンキナーゼの基質として同定されました。SLP-76 遺伝子座はヒト染色体 5q33 に局在し、遺伝子構造はマウスで部分的に特徴付けられています。ヒトおよびマウスの cDNA はともに、72%同一で3つのモジュールドメインからなる 533 アミノ酸タンパク質をコードしています。NH2 末端には、TCR ライゲーション後にリン酸化される PEST ドメインといくつかのチロシン残基を含む酸性領域が含まれています。SLP-76 は、中央のプロリンリッチドメインと COOH 末端の SH2 ドメインも含んでいます。受容体ライゲーション後に恒常的および誘導的の両方で SLP-76 と関連する多数の追加タンパク質が同定されており、SLP-76 がアダプターまたは足場タンパク質として機能するという考えを裏付けています。SLP-76 欠損 T細胞を用いた研究 c ドメイン: SH2 ドメインは SHB との相互作用を媒介する。機能: T細胞抗原受容体を介したシグナル伝達に関与する。PTM: ZAP-70 による T細胞受容体活性化後にリン酸化される。類似性: 1つの SAM (sterile alpha motif) ドメインを含む。類似性: 1つの SH2 ドメインを含む。サブユニット: SLA と相互作用する。CBLB と相互作用する (類似性による)。アダプタータンパク質 GRB2 および FYB と相互作用する。SHB と相互作用する。PRAM1 と相互作用する。組織特異性: 脾臓、胸腺、末梢血白血球で高発現する。T細胞および単球細胞株でも高発現し、B細胞株では低レベルで発現する。線維芽細胞株および神経芽細胞腫細胞株では検出されない。

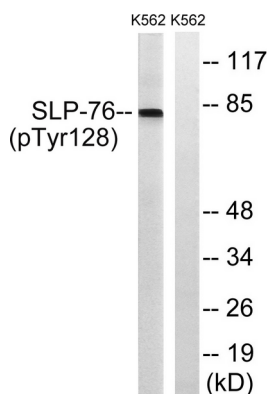
## 研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;T細胞受容体;Fcイプシロン RI;

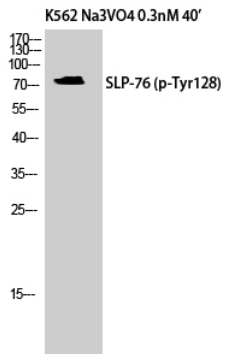
## 画像データ



SLP-76 (リン酸化 Tyr128) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Na3VO4 0.3nM 40°処理した K562 細胞ライセートの SLP-76 (リン酸化 Tyr128) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 SLP-76 (Y128) ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析